

ブラジル -政策金利14.25%据え置き-

<金利据え置き続<>

10月21日（現地時間）、ブラジル中央銀行（以下、BCB）は金融政策委員会において、政策金利を14.25%に据え置くことを決定しました。

景気後退局面が長期化する懸念が高まっているため政策金利を据え置いたものと見られます。ブラジル経済はスタグフレーション（景気後退と物価上昇が同時に進行する状態）に陥っており、金融当局は、景気を悪化させずにインフレ率を抑えるという難しい舵取りを強いられています。

声明文では、インフレ率を目標に収束させるためには金利を十分に長い期間、現在の水準に維持する必要があると述べており、政策金利を当面据え置く方針を維持しました。

<ブラジルレアルは不安定な動き>

ブラジルレアル（以下、レアル）は9月23日、終値で1米ドル=4.178レアル、1レアル=28.79円に下落し、1994年に現行のレアルが導入されて以来の最安値を更新しました。

9月下旬以降は、BCBが為替介入を増やしたことや、10月2日に発表された内閣改造が好感されたことから、売り圧力は一時よりは和らいでいます。足元のレアルは、予想通りの据え置きだったため小動きとなりました。10月21日の海外終値は、1米ドル=3.94レアル、1レアル=30.43円です。

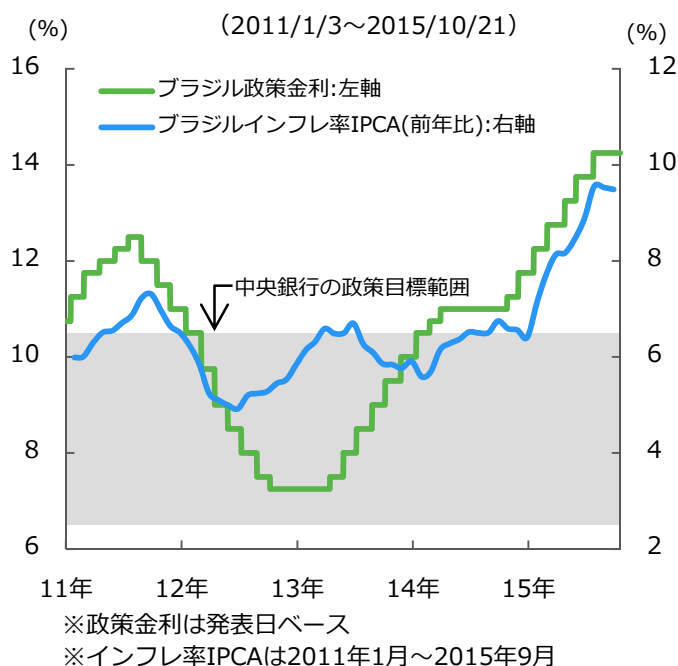
<懸念材料多くレアルの下値不安くすぶる>

ブラジル国内の政治的、経済的な混迷が継続する可能性が高く、レアルは当面不安定な動きが続くと予想されます。

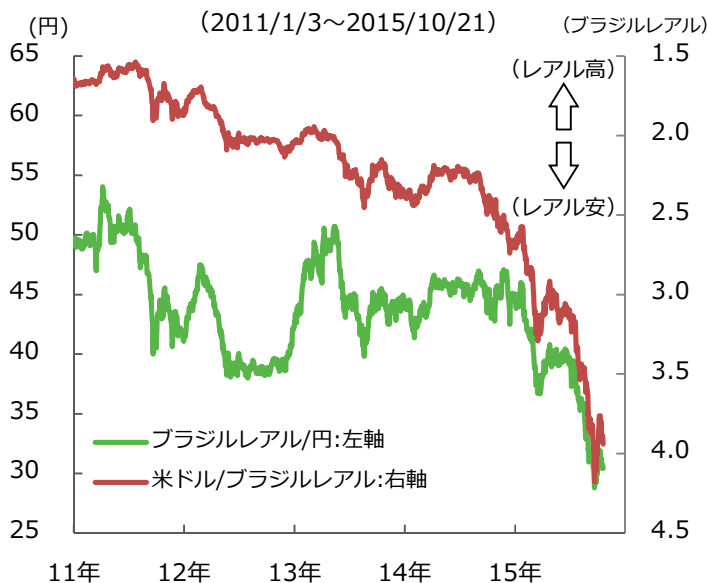
10月15日には格付け会社フィッチがブラジルの信用格付けを投資適格水準の最低ランクであるBBB-に引き下げ、更に投機的水準に引き下げられる懸念も出てきました。長引く経済減速、政治不安や財政健全化の遅れなど懸念材料が多く、下値不安がくすぶる展開になると見られます。

一方、中長期的な観点からはレアルの評価が見直されることが期待されます。レアルは足元、導入以来の安値水準に下落していますが、外貨準備の大きさや、今後も財政健全化策が採られる見通しであることから、将来的にはレアルの見直しが期待されます。

<政策金利とインフレ率の推移>



<ブラジルレアルの推移>



出所：Bloomberg

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（但し、最低 2,700 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会